

調査目的

総務省が実施した「地域づくり人育成講座」、「全国地域づくり人財塾」の既受講生の動向を把握し、本講座の効果や改善等を概観する。

調査対象・方法

人財塾等への申し込みをした都道府県・市町村の担当窓口を通じて既受講生に対してメールにて調査票を配布し回収した。

調査期間

平成25年12月4日(水)～20日(金)

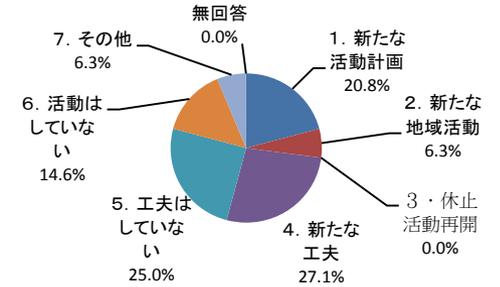
回収数

48件
(平成23~25年度までのJIAM既受講者178名を対象に調査)
(回収数には一部、JAMP既受講者を含む)

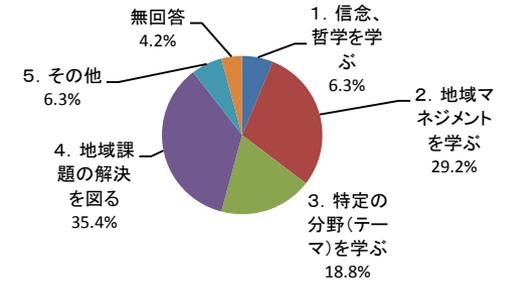
結果概要

- 受講による意識変化は、「コミュニケーションを増やす」など多面的。
- 行動の変化としては、「新たな工夫」や「新たな計画」など半数以上がアクションを起こす。起していないケースは「経験不足」・「変えるきっかけがない」など。
- 修了生が感じる人財塾の効果は「活動の企画・行動のヒントの獲得」・「モチベーションの向上」。
- 人財塾の改善点は「フィールドワークの導入」・「演習時間を増やす」・「ディスカッション時間を増やす」。全体的に「時間が足りない」という意見も。
- 現在、修了生が感じている課題は、「時間」・「資金」という環境的な課題のほか、「知識」・「意欲」・「(行動をおこす)勇気」といったノウハウ的な課題も感じている。
- このため、今後、受けた研修は、「それぞれの地域課題をとりあげ、その解決を図る研修」、「事業計画づくりなどの地域マネジメントを学ぶ研修」に対する要望が高い。
- 今後、更に受けた研修のカリキュラムは、「ワークショップ」・「フィールドワーク」・「ディスカッション」といった参加型研修に対する要望が高い(学習型のニーズは低い)。
- 最上位のレベルの研修としては「コーディネーターとしての実践研修」・「プロジェクトの企画実証実験研修」・「全国の修了生と議論する勉強会型研修」に対する要望が高い。

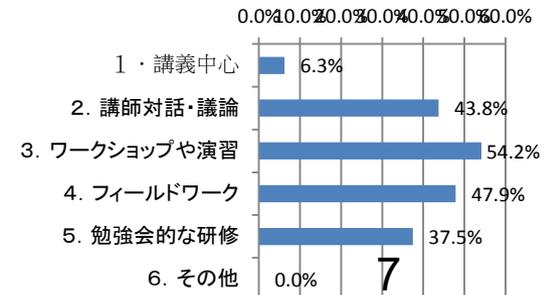
受講後の行動変化



今後受講したい研修での学習内容



今後受けた研修のカリキュラム



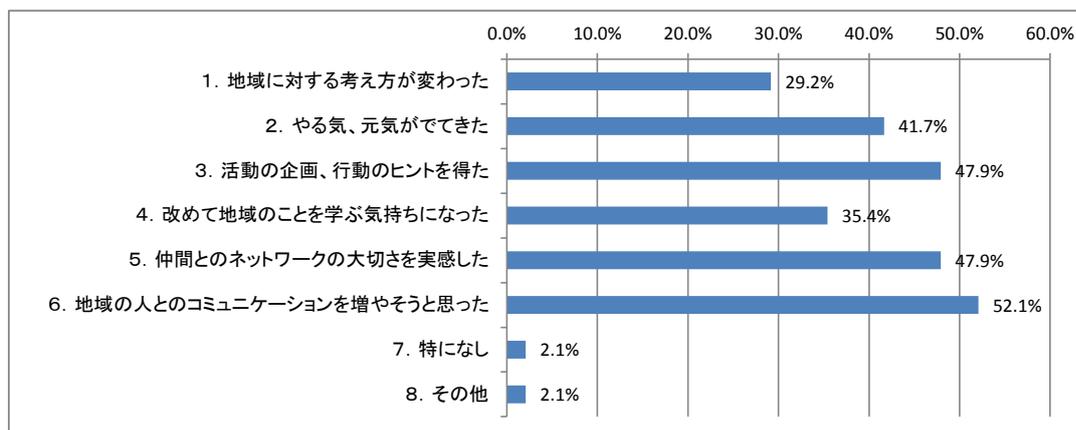
地域づくり人育成講座・全国地域づくり人財塾フォローアップアンケート調査

<個別集計>

【研修効果等について】

問1 地域づくり人育成講座・全国地域づくり人財塾(以下、「人財塾等」という。)を受講した結果、どのような意識の変化があったか。(複数選択回答)

	MA	N= 48
1. 地域に対する考え方が変わった	14	29.2%
2. やる気、元気がでてきた	20	41.7%
3. 活動の企画、行動のヒントを得た	23	47.9%
4. 改めて地域のことを学ぶ気持ちになった	17	35.4%
5. 仲間とのネットワークの大切さを実感した	23	47.9%
6. 地域の人とのコミュニケーションを増やそうと思った	25	52.1%
7. 特になし	1	2.1%
8. その他	1	2.1%
合計	48	100.0%



問2 人財塾等を受講した結果、どのような意識の変化があったか。(主な自由回答)

<意識が変化した>

- ・ “市民が地域を作っていく人材に成長する必要がある”ために、例えばリーダー育成講座を開催する、という視点もあるが、全ての人にリーダーの役割を求めるのではなく、それぞれの特性を活かした役割があるということ、また行政は“その出番を作り出す・その気にさせる”機会・仕組みを作っていくべきであるということを感じた。
- ・ 先進地は、どの地域も民間サイドにスーパースターがいて、行政にそれほど頼らなくても活動を展開している。当地域においては、ボランティア人口は多いが、全体的を取りまとめて、実践展開する人はいないので、人材育成に取り組む必要があるし、官民一体の組織づくりが必要であると思った。
- ・ 全国から情報や人材を収集することで、自地域だけで解決できないことも解決する糸口が見つかる可能性があることを再確認。そのために、全国各地に人・もの・ことのネットワークを広げていきたいと感じた。
- ・ 自分の立場(行政)から地域へ働きかけていることに対し、「押し付け」や「上から目線」になってはいないか不安を抱えながら業務を行っていたが、研修を受講することにより行政以外のさまざまな立場で地域づくりを行っている方々のお話を伺うことができ、大変心強く感じた。
また、自分が働きかけていた相手だけでなく、地域におられる方のさまざまな方が協働相手になる得ることを知ることができた。
- ・ どういった活動を行っているか、活動に至った経緯などの成功事例を聞くことで、同じような活動は難しいかもしれないが、取組に対して前向きに考えることができるようになった。
- ・ 公私とも主体性が高まった。
- ・ 新聞やインターネット等で調べれば、全国には様々な地域活性化への取組があることは知っていたが、直接接したり、話をお聞きすることがいかに大切なことであるか、改めて感じた。今まで何となくやらなければと思っていただけであったが、わずかずつではあるが行動に移していかなくてはと強く感じた、というか後押しになった研修会であった。
- ・ 地域づくりの意識が全くなかったが、受講後自分の日常業務の外に、地域づくりを並行して行える職員になろうと考えるようになった。
- ・ まず一番に、「地域に飛び込んでいく」ことの大切さを学ぶことができた。目線を合わせ、新しいことへの挑戦を怖がることなく、事業等を進めていきたくなった。
- ・ 地域とのパートナーシップを築くためには、住民にとって「やらされている感」や「行政の上から目線」を感じられてしまっは絶対に上手いかない。そうならないためにも、住民との会話や実際の活動をとおり、信頼関係を構築することが重要であると気付かされた。

- ・受講するまでは地域には活用できる資源は何もないと考えていたが、そこに人がいて結びつきを強めることだけでも、活動の原点になりうることを知った。
自分だけでできることは本当に限られており、人と協力することで、相乗効果が生まれ、最大限の能力が発揮されることを学んだ。
そのため、業務上でも、それ以外でも人のつながりをより一層大切にしようという意識が強くなった。
- ・行政は市民らに地域活動を参加するよう呼びかけるだけでなく、行政自らが地域活動に参加することが大切だと感じた。またこうした地域で活動されている方々が、もっと活躍できるような場づくりが必要だと思った。
- ・「まちづくりをする」と考えた時、とても大きなテーマで何からすれば良いのか分からなかったが、全てを一人でするのは無理な話であり、自分自身でできることを無理せず小さくてもまた少しずつでも良いので継続してやっていくこと、長い時間掛かるかもしれないが、それが最終的にまちづくりに繋がるという認識を持てるようになった。
- ・対象とする相手をしっかりと見ることに気付かされた。
- ・受講前は、市民協働による地域活性化への限界と「やらねばならない」といった事への不安があったが、受講後は、現在、自分の置かれている状況を違う角度から見つめ直す事ができたので、気負いせず肩の力を抜きながら、人材塾で得たヒントと情報をバネに、前進して行けるような気がしている。
- ・(受講前)現在、公務として担当している人口減少・少子高齢化の進行地域への取り組みや、一市民として取り組んでいる地域おこし活動に係る運営団体の元気アップにつながるヒントが得られたら、という思い。(受講後)多くの講師の方々から、いろいろヒントをいただけ、即実践で使えるものもあり、非常に満足した。それにも増してよかったのは、各地で頑張っている人たちとコミュニケーションできたことで、モチベーションが格段にアップした。
- ・従来から継続してきた地域活動が間違っていなかったという思いを得て、より自信を持って活動に取り組むことができるようになった。
さらに、人と人のつながりが何よりも大事であることが勉強できたので、新たな地域活動家や団体とも関わりを持っていこうと思えるようになった。

<刺激を受けた>

- ・「地域」の活動について、より関心が高くなった。(身近に感じるようになった。)
- ・すでに無料のパソコン塾を立ち上げていたが、刺激されるいい機会となった。
- ・講師の皆さんの熱い気持ちに触れて、とても刺激になった。地元のイベントなどにはできるだけ協力するようにしてきたが、更に意識を高めて住民の皆さんと関わっていかねばいけないと感じた。とはいえ、私一人ではアイデアも能力も足りない部分が多いので、仲間たちとまた何ができるのかを考えていきたいと思っている。
- ・今の現状を、何とか変えたいという思いは強くなった。
- ・講師及び受講者の熱意ややる気に触発され、地域活動に取り組むモチベーションが上がった。
- ・いろんな講座を受講して、やる気が刺激された。
- ・今まで漫然と行っていたことが多かったと感じさせられた。少し失いかけていた気持ちの活気と勇気を奮い立たされたような気がする。

<心構えができた>

- ・業務と地域活動をミックスさせて、いい意味で公私の枠に関係なく活動することを心がけている。
- ・地域づくりにとって重要なのは「人材」を見つけることであることを認識した。そのような視点を意識して地域のことを考えるよう努めている。
- ・集落・地域・村の少子高齢化等の現状から危機感が強くなり「何とかしなければ」といった気持ちが先に立つことがあるが、「分科会で受講したやねだんの豊重哲郎さんの「感動と感謝の地域づくり」「慌てるな、急ぐな、近道するな」「三歩進んで二歩下がる」といった実践者の言葉・精神を学んでからはそのように心掛けるようにしている。
- ・自分の持っていない考え方や実践活動を学ぶことにより、仕掛け方を確認できたため実践しようと思っ
- ・自分に自信を持つこと。自分が実践していることに責任と誇りを意識して持つことで、周囲にもきちんと伝えられることを受講から学んだ。その意識は今でもしっかりと持っている。
- ・何事もベストを尽くす。できること、やったほうが良いことは、どんどんやる。
- ・地域のどんな小さな活動に対しても関心を持ち、学びの意識を持ち続けること。
想いを実現するために、すぐに活動に結び付ける意識を持つこと。
- ・これまで行ってきた活動をさらに活性化するための、プレゼン力と説明力の必要性を感じている。
- ・講義等で得た知識やノウハウを活用して、地域活動に取り組もうと考えている。具体的には、関係者とのコミュニケーションの取り方や、関係機関との連携の仕方など。
- ・さまざまな自治体の方と交流ができ、仲間ができたことが一番の収穫であった。
講師の方の話を伺うと「できることから」、「まずはやってみる」、「楽しくやる」という共通のキーワードがあったように思う。経験値の浅い自分でも、やれることから始めてみようと思った。
また、多くの方が業務として地域づくりに携わっていたが、悩みについては共通のものが多かったので、自分が業務を行う際の心構えができた。
- ・人材塾で一番心に残った言葉は、前神先生の「自分自身が地域づくり団体の一員となって、団体の中に入っていないと、本当の市民協働とは言えない」という言葉である。現在の職務は、地域づくりとは関係のない部署であり、「市民協働」という言葉は聞いていたが、言葉を知っているだけで、実際にどのような行動が「地域づくり」・「市民協働」なのかが分かった。知識だけで、行動しないのは最悪なので、これから少しでもいいのでアクションを起こしていきたいと思う。
- ・地域に積極的に関わっている方と、その関わり方についてお聞きしたことが、今後、自分の前にその出番が来たときの一助になると感じている。
特に“人材”については自分が人材とらなくても、人材を手助けできる職員になれるよう研鑽を積みたと思った。

<行動が変化した>

- ・グループワークをする際などに、リーダーを引き受けるようにしている。
- ・意識して、人前でしゃべる経験を積むようにしている。
- ・考えることも大事だが、まず動くことが大事。
- ・地域の集まりに参加するようになった。
- ・それまでは、仕事もなんでも一人でしっかりすればいいと思っていたが、一緒に進めていく仲間が必要で、そのためには、自分の考え、想いを伝えることが大事であることに気づき、どうすれば相手に伝わるかを念頭に置きながら行動している。
- ・やねだんの豊重氏の「地域に入っていく上で、相手の名前を覚えるのは当然の入口だ」という言葉が当たり前のことであるが、とても印象的であった。そのため、人財塾受講後、地域の人と関わる上で、まず名前を覚え、名前前で呼びかけるという点を意識するようになった。
- ・地域との繋がりの必要性は理解しており、その取組みへの意気込みはあったが、実際の具体的な行動には、戸惑いがあった。この講座では、実際に具体的な取組みを行っている経験者のお話を伺い、背中を押してもらえた気がする。まずは行動してみるという意識や発信力の必要性も含め今の取組みに繋がっている。

<確認ができた>

- ・いままでやってきた、まちづくり・人材づくりが、ほぼ的確にやれていたことを確認できた。
- ・実際に多くの地域活動があり、その中からとりわけ先駆けとなる経験者の方のお話や進歩的な研究者の方のお話を聴くことができ、勉強になったと同時に自分の力不足も感じた。でもできることから講師のみなさまが繰り返しおっしゃっていたので励まされた。
- ・自分が働く地域についての知識の無さに改めて気づき、少しずつ小さなことから、地域について学んでいかなければならないと感じた。
- ・まちづくりには具体的な目的が必要と実感した。その目的が身近で具体的なものであるからこそ、それに対する賛同者や協力者が集まり大きな輪に広がっていると感じた。
- ・23年度に市内企業の若手経営者や後継者・経済団体職員・行政職員を対象にして、人財育成塾を行政主導で立ち上げ、事務局として切り回しているが、今なぜ地域の人材を育てていかなければならないのか、財政等の不要論を押し切って取り組んできたことは間違いでは無かったと感じているし、全国の同志の繋がりを持てたことは、大変意義ある研修であった。個人として、自分の地域で取り組んでいる、地域づくりにおいても、マンネリ化して行事消的な状況を打破するのは、自分が強い思いを持たねばと改め直す機会となった。
- ・地域とのネットワークの大切さを改めて感じた。
- ・個人的なネットワークの大切さを痛感した。

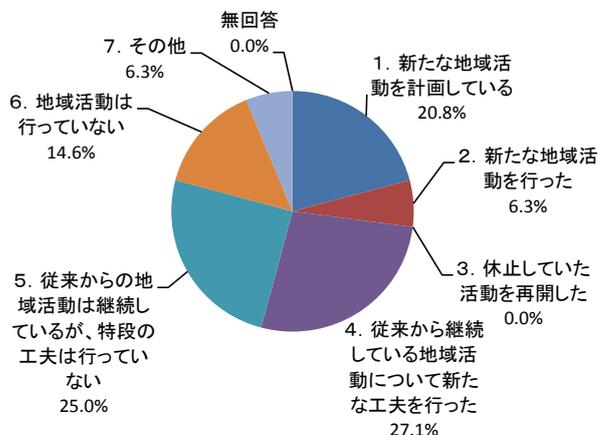
<参考になった>

- ・全国の実践活動を行っている方からの言葉は、活動の企画に有効で企画の仕方や住民とのかかわり方などに参考となった。
- ・講師の方々がとても熱い思いで地域づくりをしていらして、その取り組みの角度もさまざまとても自分の中の選択の幅やアイデアが広がった気がした。柳谷・豊重さんの過疎地域による取り組みや、吉備野工房ちみちの加藤さんの人に焦点をあてる取り組みはとても参考になった。

問3 人財塾等の受講後、どのように行動が変化したか。(単一選択回答)。

	SA N= 48	
1. 新たな地域活動を計画している	10	20.8%
2. 新たな地域活動を行った	3	6.3%
3. 休止していた活動を再開した	0	0.0%
4. 従来から継続している地域活動について新たな工夫を行った	13	27.1%
5. 従来からの地域活動は継続しているが、特段の工夫は行っていない	12	25.0%
6. 地域活動は行っていない	7	14.6%
7. その他	3	6.3%
無回答	0	0.0%
合計	48	100.0%

※その他 1と2を選択:1件、1と2と4を選択:1件、2と4を選択:1件



問4 問3で「1」～「4」を選択した回答者の行動の変化について。(主な自由回答)

<1. 新たな地域活動を計画している>

- ・ 団地(約700世帯)の活性化、より良い環境とするために、26年度より団地自治会長を務めることに。
- ・ 所属している部署で行っている事業において、ご当地グルメを開発する計画を仲間たちと一緒に研究している。自分自身がファシリテーターになって、後輩たちを巻き込みながら活動している。
- ・ 自身の地元と職場のある地域で共通する祭があり、この祭を通してまずは人的交流等を行いたいと考えている。様々な問題があるが、それをどうクリアにしていけるかが今後の課題であるが、継続してまずは人的交流等ができるように活動していく。
- ・ 合併前はスポーツが盛んな地域であり、中学校等にも地域の指導者がボランティア的に関わっていたものの、合併後その取り組みが停滞しているので、総合型地域スポーツクラブの立ち上げと運営を行い、行政のお金に頼らない、スポーツの振興による地域づくりに取り組む計画を仲間と検討中である。
- ・ 受講生に西日本の方が多かったので、自主的なフォローアップ研修ができれば、と現在計画中である。
- ・ 繋がりを大事にし、研修会・セミナーに積極的に参加し、会の終了後可能な限り参加者とコミュニケーションをとるようにしている。
- ・ 新たな地域活動に、触発されて、新たな助成事業を申請した。
- ・ 現在は、以前よりあった団体にて、お手伝いするような形で地域づくり活動を行っているが、人財塾で刺激を受けたため、新しい地域づくり団体を結成して、より狭い範囲で地域づくり活動を行っていきたいと思うようになった。
- ・ 区・自治会を横断した地域まちづくり協議会を立ち上げることを考えている。

<2. 新たな地域活動を行った>

- ・ 従来より関心のあったファンドレイジングの研究を進め、日本ファンドレイジング協会が創設した「認定ファンドレイザー資格制度」の認定ファンドレイザー資格を取得した。これにより、人前でお話する依頼がある際もお引き受けしている。
関西圏でファンドレイジングに関心のある方たちを結びつけ、知識や情報を共有するための勉強会を主宰している。
- ・ 地域の一人としての取組は当然のことだが、地域づくりに関わる村職員として、行政主導ではない住民主体の地域づくりをすすめるべく「新たな集落支援のモデル的取組」として集落支援員と地域おこし協力隊員をペアで配置した「地域づくり応援団」の仕組みを新たにつくる(H24.4～)など、行政職員の立場からも地域活性化に関する具体的な取組を更にすすめるようになった。
- ・ 市民や行政、教育機関など様々な機関が関わっている市内まち歩きイベントにボランティアとして参加した。

<4. 従来から継続している地域活動について新たな工夫を行った>

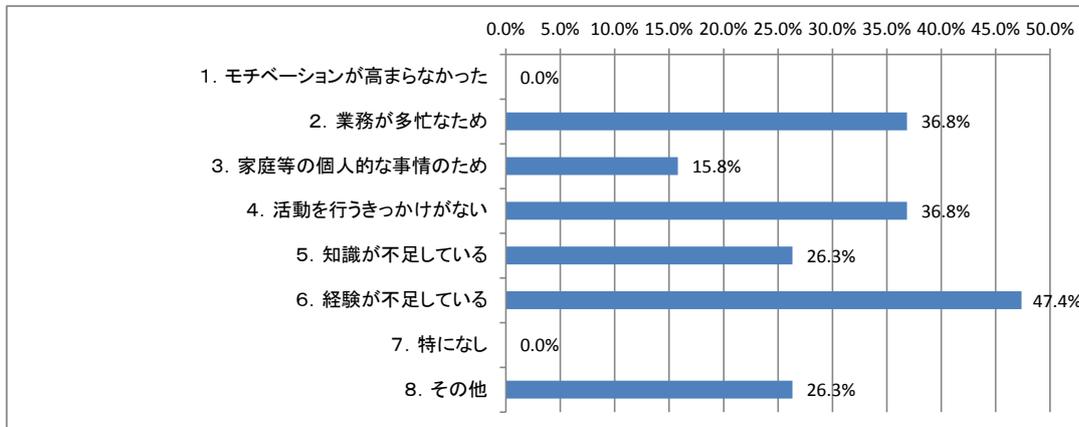
- ・ 地域活動の事業を、民間主導で展開できるように取り組んでいる。また、緊急雇用対策事業を利用して、観光振興事業に取り組んでいる。
- ・ 地域の特性・伝統・文化を活かし、発信する要素を取り入れた。
- ・ 活動する意味などをしっかり捉え、住民にも活動することの目的などを再認識していただく取り組みを行った。
- ・ 周囲にPRするようになった。内輪で完結させない。
- ・ 社協のゆるキャラを使い、職員で寸劇をしている。社協支所で開催するイベントにも呼ばれたらできるだけ出るようにしている。
- ・ 継続していた地域活動について、これまでの協働相手を複数の立場の相手に広げた(民生児童委員だけに働きかけていたのを社会福祉協議会やサロンやボランティア等とも連携するように努めた)。「地域に出ていく公務員」を育てることが大事であると感じていたため、庁内勉強会を立ち上げに携わった(いきなり地域に出ていくことは困難と思ったため、まず実務から学ぶ手法を取っている。ゆえに、新たな地域活動を行うところまでは至っていない)。
- ・ 研修前から取り組んでいた事業において、活動を主体的に取り組む組織としてのNPO法人を起ち上げ、活動を開始した。
- ・ 地域行事をより良くするため、企画の段階から積極的に参加し発言している。
- ・ 地域の目指すべき将来像を検討するにあたり、行政だけで進めるのではなく、地域との協議やアンケートをとおした意見交換の場を取り入れた。
- ・ 小学校PTAや地元区長会等、様々な団体に協力をよびかけ参加してもらった。
- ・ 中山間地域の活性化について、地元コミュニティとのコミュニケーションを増やすとともに、都市部の関係者(大学やNPO)と連携について意見交換を始めた。今後、両者のコーディネートについて、できることから推進していきたいと考えている。
- ・ 地域で20代30代若者会の活動や、小仕事をこなすスモールビジネスをめざした話し合い、地域会議への参加など。
- ・ イベント出展時、参加したメンバーすべてに出番を与えた。「感動&感謝のつながり」を強く意識した。女性、若者に多く参加してもらった。

<7. その他>

- ・ 地域活動を実践する中で手法として活用している。
- ・ 人材塾の講師を当町に招き、「地域が元気になるタネをまこう」という内容で講演していただき、さらに1人ひとりの能力が生かせる場づくりを学ぶ一環として、ワールドカフェの手法を学び実践した。現在、毎月人材育成講演会を企画して実践しているが、2月には町内で新規就農者として成功を収めている方を含めた若手の農家の皆さんと夢を語る場の設定を考えている。
- ・ 市民協働による地域づくりを目指す組織を立ち上げてもらい、今後の地域活動や学校連携を含め、取り組み始めた。地元大学との連携を含めた地域づくりを計画し、来年度実施する予定である。地域活性と地域づくりをテーマに、講師を依頼し、職員向け研修を実施した。

問5 問3で「5」～「6」を選択した回答者の理由について。(複数選択回答)

	MA N= 19	
1. モチベーションが高まらなかった	0	0.0%
2. 業務が多忙なため	7	36.8%
3. 家庭等の個人的な事情のため	3	15.8%
4. 活動を行うきっかけがない	7	36.8%
5. 知識が不足している	5	26.3%
6. 経験が不足している	9	47.4%
7. 特になし	0	0.0%
8. その他	5	26.3%
合計	19	100.0%



問6 問3で「5」～「6」を選択した回答者の理由。(主な自由回答)

<5. 知識が不足している>

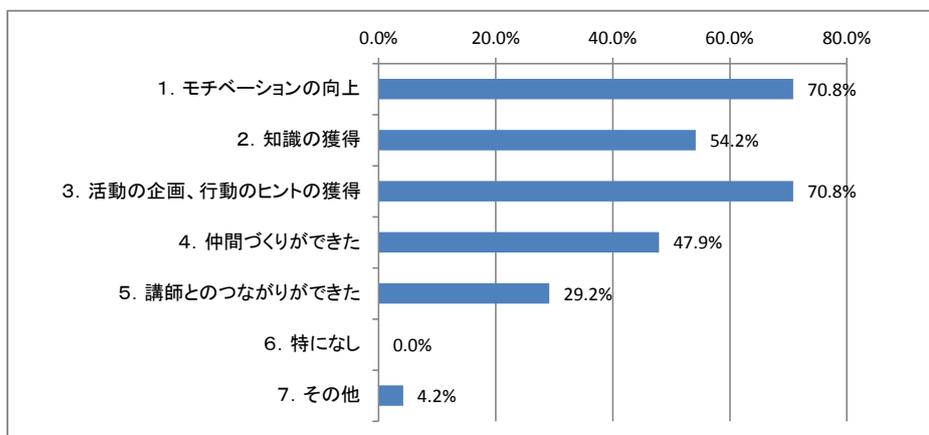
- ・ 日々の業務をこなすことを優先すると、どうしても時間が不足してしまい、さらなる工夫までには至っていない。
- ・ いままでやってきた、まちづくり・人材づくりが、ほぼ的確にやれていたことを確認できた。
- ・ 公園を維持・管理していくために、地域に住まわれている住民の皆様のを借りて、守る会・里親の活動のサポートを継続して行っているが、震災復興関連の通常以外の業務が加わり、厳しい状況となってしまったため。
- ・ 現在の取組みの中で長年携わっている先輩がおり、私はまだ副担当で勉強中であるため、新しい取組を実行するまでにはまだ至っていない。
- ・ どんな工夫をしていったらいいのか、現在検討中である。
- ・ 年度途中に受講したので、年間計画が決まっている中、手をつけられていない。
また、どのようにアプローチしていくか考えている。
- ・ 入庁1年目のため。
- ・ 補助金で活動している「まちづくり協議会」の運営をどのように進めていくかを法人化も含めて協議している段階である。
今は職員が準備から調整まですべて行っている状況でマンネリ化してきており、意識を変えるためどのようにしたら良いか対応の仕方を思案している。
- ・ 現在行っている地域活動は、旧来からの組織であり、人材がないという課題はあるものの、なかなか体制を変えることが難しい。
- ・ 研修終了直後から公私ともに忙しくなり、研修受講前からある程度実施している地域活動を継続することで手一杯である。
- ・ 研修が終わって以降、担当事業、予算編成、市議会対応と続き、4月からの初めての職場であることも影響し、自分に余裕を持つ時間がなかった。

<6. 経験が不足している>

- ・異動となり、地域づくりの業務から離れてしまった。
また、業務多忙で個人としての活動が行いにくい状況となった。
- ・数年前に有志グループを作り、これまで海中清掃、パネル展示等を通して、海洋環境保全活動を行ってきた。次第にメンバー不足、資金不足が問題となり、近年は活動も休止状態であった。しかし、現在、漁業をはじめとする漁村文化のPR施設整備の担当になったこともあり、仕事として同内容を様々な団体と連携しながら行えるようになった。
- ・何からはじめて良いか分からない。
- ・仕事として、地域活動に携わっているが、プライベートでは活動を行っていない。
最近子どもが生まれ、バタバタしているという理由もあるが、現在住んでいる地域がもともと生まれ育った地域でないことから、あまり愛着も感じておらず、また、活動を行うきっかけもない。
- ・長期にわたり体調を崩していたため。
- ・人材塾で様々な活動を聞き感銘を受けたが、日常生活において地域活動のきっかけづくりが分かず、それに充てる時間を捻出できずにいる。

問7 人材塾等の良かった点は何か(複数選択回答)

	MA N= 48	
1. モチベーションの向上	34	70.8%
2. 知識の獲得	26	54.2%
3. 活動の企画、行動のヒントの獲得	34	70.8%
4. 仲間づくりができた	23	47.9%
5. 講師とのつながりができた	14	29.2%
6. 特になし	0	0.0%
7. その他	2	4.2%
合計	48	100.0%



問8 人材塾等の改善点について。(主な自由回答)

<時間が足りない>

- ・これまで多大な実績を積み重ねてきた名立たる講師の方々の講演を一気に聞くことができ、自分自身にとって今までにない貴重で有意義な経験をさせていただいた。
ただ、講師が素晴らしい方々ばかりであったため、数時間の講義で終わってしまうのはとてももったいなく思えた。講義の目的が地域福祉の「さわり」に置かれているならば、講師の質と量ともに聞き手の許容量を超えているように見え、「深化」を目的としているならば、一講師数時間の講義は上澄みを撫でるだけのようでもどかしく思えた。
今回の講習を受けられた方は、おそらく既に地域で働きもがき悩んでいる方がほとんどであると思われるため、多くの講師の多くの講義よりも多くのディスカッションが良いのではないかと考える。
- ・とても充実した時間でありがたかった。個人的に、内容の深い講義と教室移動についていくことがやっとなかった。吸収したことを消化する時間が、途中途中にもう少し欲しかった。(昼食時間があと30分あると、午前のふり返りをまわりの方もできたかもしれない)
- ・課題が大きすぎて短時間で理解しにくい。

<カリキュラムについて>

- ・ 講義スタイルが多いイメージだったので、フィールドワーク等も交えたと一層いいかと思う。
- ・ GWにて個々の現状を語るにより、意識の共有を図れるとより良かった。
- ・ 単発でなく定期的に行い成長していくようなカリキュラムがあれば良いと思う。
- ・ ネットワークづくりと人財塾フォローアップ
- ・ 2日目の夜の講義は、募集の段階では予定になかったため、有意義であり内容も充実していたが、やはりプログラムはある程度固まったものを当初から示していただきたい。
経済産業省の「キーパーソン活用型地域活性化研修」にも参加したが、その研修では一方的に講義を受ける形態だけでなく、受講者どうしが意見交換する場が多くあり、とても充実した研修であったため、人財塾においてもそうした機会が、もう少しあるとよいのではと感じた。
- ・ 今回の受講スタイルは講義形式が多かったため、もう少し、グループワークを増やしても面白いと思う。
- ・ もっと現場学習(フィールドワーク)があっても良い。
- ・ 最初に自己紹介を行う時間を取っていただいた方が、より早く、お互いを理解しあえる。
- ・ 受講者がさらに交流できるよう、ワークショップの時間を増やした方がよいと思う。
- ・ できれば、アフター5の時間は、アルコールも入れたものにしていただくと、交流や意見交換が促進されると思う。
- ・ グループでのディスカッションがもっとあってもよいのではないか。
- ・ 一日目はいいが、二日目以降で自己紹介で時間がくってしまうのはもったいなかった。
- ・ 二日目の研修が詰め込みすぎて、充実はかなりしていたが情報量が多すぎて頭がパンクしそうだったので、18時くらいまでにしてほしかった。
- ・ 全国から、「地域づくり」という、ある意味通常業務とは離れた仕事ではないけれども重要な仕事に熱心な仲間が集まる研修であり、素晴らしい事業だと思う。特に改善点という改善はないように思うが、2日目のグループワークで、順番をつける際に、どのようなグループワークをするのか、記載してあると選びやすいと思った。
- ・ たくさんの方々との交流には消灯時間が早すぎるので、もう少し遅くして頂ければと思う。

<講師、内容について>

- ・ 既に話題の人が講師だったように思うので、先進的な若者などがいてもいいと思う。
- ・ もっと、地味な成果を上げている人(団体)の話を知りたい。突出した成功例を聞いても、なかなか、自分の町に持ち帰っても、役に立たない。
- ・ 素晴らしい事例が多く良かったが、もう少し苦労した点など泥臭い部分が聞けるとよかった。
- ・ 過疎地だけでなく、都市部において地域活動をされている方の話を聴けたらと思う。
都市部では、地域のつながりが希薄になりがちであるため、こうした状況下で地域づくりを進めていく方法を学びたいと思う。

<情報交換等の場の提供>

- ・ 講師の方々もさまざまな視点でご講話いただき、またたくさんの方々との交流できたことは、自分自身の大変大きな成長になった。たまたま私が“市職員”という立場なので、同じような職種の先輩方の経験談などがゆっくりお伺いできる機会があれば、個人的ではありますが、さらによかったかなと思う。
- ・ 参加している全員と情報交換したかったのですが、限られた時間の中ではかなわなかった。受講中もしくは受講後に情報交換する場(SNS含む)を設けていただけるとありがたい。
- ・ 実際に活動している人が集まり、取組へのアドバイスが得られる場があってもいいと思った。
- ・ 今回の研修において、他の地域の多くの方と知り合うことができ、また、現在においては講師の方や受講者とメーリングリストやSNSを通じて情報共有を図ることができているが、そういうことが出来ていない方もいるので、研修期間中において、受講者同士を繋ぐカリキュラムを少ない時間でもいいので、あるといいと思った。
- ・ 塾生同士の繋がりや、意思疎通を図れる時間がもう少し欲しい。
- ・ 初級編ということで、講義中心であったため、受講生同士の交流時間が少なかったように思う。
午前10時くらいから、事前研修ということで、1時間程度でも受講生の交流時間があれば良かったと思った。

<内容の継続>

- ・ 非常に興味深く、印象的な研修だったので同様の内容を継続してもらいたい。
- ・ 特になし。著名な講師のお話が聞け、とても貴重な経験ができた。
- ・ 今のままでよいと思う。
- ・ 特になし。非常に参考になった研修であった。
- ・ 研修内容については素晴らしいものだったと感じている。

<周知>

- ・初めての宿泊研修であったが、最初は緊張もあったが、積極的に取り組めた。できればもっと早くに受講機会があればよかったとも感じたため、自分自身のアンテナを高くする必要性を感じた。
「きっかけ」という意味では、まだまだ市として参加する意識は低く、実費による参加になったりするため、その位置づけも高くなれば良いと思った。
- ・今回、行政の方々が多く見られたので、より広く、NPOなどに広報したらいいと思う。

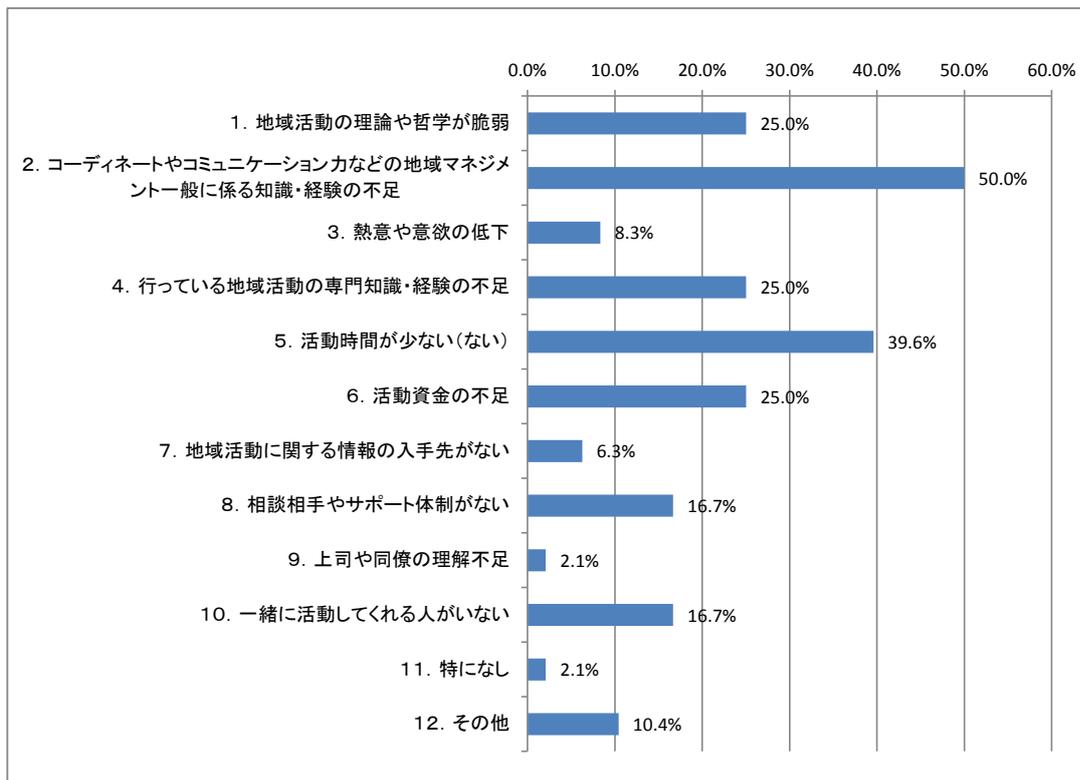
<その他>

- ・全体的な講義内容については満足しているが、個々の講義について事前にもっと情報提供をしていただきたい。毎回同じ内容ではないと思うが、各講師陣の講義内容が動画等で見れるようになると思う。もしくはそれに類する動画配信を希望する。(フリー・登録制、どちらでも可)
- ・私が参加した市町村アカデミー開催の塾では、地域活動にそれほど取り組んでいない市町村職員が多かったように感じる。職員以外の地域活動を実践している市民の参加がもっと増えるといいなと感じた。
- ・できれば、予算編成や定例議会対応時期は日程調整をしていただいた方が、より多くの職階の皆さんの参加が得られると思う。

【地域活動を行うにあたり、現在感じている問題点・課題】

問9 地域活動を行うにあたり、現在、感じている自分自身の問題点・課題は何か。(複数選択回答)

	MA N= 48	
1. 地域活動の理論や哲学が脆弱	12	25.0%
2. コーディネートやコミュニケーション力などの地域マネジメント一般に係る知識・経験の不足	24	50.0%
3. 熱意や意欲の低下	4	8.3%
4. 行っている地域活動の専門知識・経験の不足	12	25.0%
5. 活動時間が少ない(ない)	19	39.6%
6. 活動資金の不足	12	25.0%
7. 地域活動に関する情報の入手先がない	3	6.3%
8. 相談相手やサポート体制がない	8	16.7%
9. 上司や同僚の理解不足	1	2.1%
10. 一緒に活動してくれる人がいない	8	16.7%
11. 特になし	1	2.1%
12. その他	5	10.4%
合計	48	100.0%



問10 現在感じている自分自身の問題点・課題について。(主な自由回答)

<時間・知識・資金等不足>

- ・ 熱意・意欲はあっても、時間・知識の不足などから、考えるまでに留まり、そこから一步踏み出して行動を起こすまでに至っていない。
- ・ 実践・経験不足が課題であると考えている。また、地域活動を積極的に行う時間・意欲・きっかけがなく、問題を解消できずにいる。
- ・ 「地域」に係る情報・知識が不足している。
- ・ 問題・課題等というレベルではないが、多くの地域活動等に参画しているため、多くの時間を費やしていて、自分の自由な時間はほとんどない。
- ・ 活動のために専任で働く人が必要であり、広告など資金調達を行っているが、資金が不足しているので、獲得方法を増やす必要がある。
- ・ 行政職としての知識・経験(予算や補助金等)が不足している。
- ・ 業務として、実際に地域活動に参加する時間がない。
- ・ 地域づくりは、その地域を理解することが重要で、それぞれに特性があると思うため、地域やそこに住む人を理解するための時間が必要だが、その時間には制限があり、調整が必要。
また、活動の相談には、必ず資金の相談があり、継続させるための資金繰りの知識が不足していると自覚している。
- ・ 時間・資金ともに捻出できていない。
- ・ 企業を回って賛助金を得る人材が不足している。
- ・ 自分を含め本来地域活動を担わなくてはいけない年代の方は、個の活動が忙しすぎて参加ができない。少ない時間の中でも、同年代の方が旧来からの活動以外の活動似取り組んでいる人がいないし、どんな取り組みをすればよいかもわからない。

<環境>

- ・ 前所属では、個人のスキルや関心事と業務を、うまくミックスすることができた(業務経験もプライベートでプラスになり、逆もまた有りだった)。現所属では、なかなか主体的に活動しにくい(自分の側の遠慮かもしれない)。
- ・ 地域リーダーの育成と世代交代のタイミング。
- ・ 後継者を育成できていない。
- ・ 仕事の多忙化、活動資金不足、一緒に活動する人の減少などが重なり、有志グループとしての活動意欲が低下してきている。活動を根気よく続けていくコツを知りたい。
- ・ 3、4年ごとに異動する職場のため、地域の人との人間関係が継続できない。
- ・ 人の問題ではなく、それをサポートする組織の問題が大きいと思う。役所内外に情報や人がいないわけではなく、それを探し見出し育む体制に乏しい。
また、現在の地方自治体は抱える問題が多く、目先の問題について対処することで精いっぱいになってしまい、成果が具体的にわかりにくい「地域福祉」について人も時間もお金もかけにくい状況があるように感じられる。またそれを言い訳にして、具体的に問題が生じない「地域福祉」を後回しにしているように感じられる。
- ・ 周囲が保守的で新しいものに取り組もうとしない、信頼関係を作り、いかに説得するか。
- ・ 町内各地区で自治会等各種団体が地域コミュニティを実施している中で、新たに全体で行う地域づくりをどうまとめるか、又はすでに活動を行っている状況で、各種団体にさらに協力をお願いするのは、高齢化もあり難しくなっていると感じる。
- ・ 仕事とのバランスが難しいと感じている。特に、現在の仕事や休日の行事等が多いため、地域活動に参加できていない。
- ・ 自団体の財政の安定の為に活動(賛助金の依頼等)により、事業だけに専念できない。

<個人的問題>

- ・ 年齢と共に体力が落ちてきている。
- ・ 個人として地域との関わりを持っていないため、細かな地域の現状を把握できていない。
情報収集等の活動を積極的にできていない。
- ・ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)。
- ・ 研修にあたり資料として自分で集めた書籍や、研修で配布された資料・テキストを読み返したりしている。
- ・ 人が増えない中、通常業務にプラスアルファの仕事が加わり、やりたくても遅々として進まない状況が悩みである。また、場をしきるためのコーディネートやコミュニケーション能力について、経験値を増やしていかなくてはと感じている。

- ・自分から積極的に行動して、繋がりを作り活動していくということが、どうしても苦手である。自分の経験不足や性格的な面もあると考えている。今は、先輩や仲間たちから声を掛けてもらい、お手伝いという形で地域活動への参加を行っている。自分が中心になって動くと考え、周りの目や自分の能力への不安からまだ難しいと考えてしまう。
- ・自分自身が考えている地域の課題と、地域の住民が抱えている課題についてのすりあわせを行う機会がなかなかない。自分自身が、具体的に何がしたいのかということが明確ではないため、そのあたりをはっきりさせるために、地域に入り込んでいかなければならないと感じているが、なかなかきっかけがつかめない。
- ・経験年数が浅いので、例年通りの事業を例年のまま資料を用意して行っているだけである。もう少し歴史やそれぞれの課題や効果を考えていきたい。
- ・地域の課題を理解していない。
- ・一人で行えることには色々な限度があり、なかなか前に進まない。また、熱意や意欲は低下していないが、そもそもそれら自体が低い。この為、それらのある人達と比べると活動全般の質・両ともに低い。
- ・自分の考えや方向性が確立されていない。こうあるべきと思っても何か違うと感じて足踏みしてしまう
- ・地域活動に顔を出している程度で、具体的に自分が動いてイベントを企画したりすることが少ないため、経験値が不足していると痛感している。今は、先輩にひっぱっていただいていることも多いので、自分から「(いい意味で)けしかけられる人」になれるよう努力したいと思っている。
- ・際限のない地域づくりと自身の経済面での不安定による心身の疲労感がある。
- ・アイデアや経験が不足している。
- ・インプットをしてもアウトプットが不得手なこと。
- ・あらゆる点で経験が少なく、とりあえず動いてみてそこから学んだことを、現在行っている事業に生かしている状況である。
地域の年長者の方々と会話する際は、若いということもあり理解していただけないことも多々ある。
- ・市民協働による地域まちづくりを考え始めて9カ月になるが、地域に飛び出での現場活動の実践経験や知識がまだ少ないので具体的な施策や事業を進める上での判断や方向性に迷いが生じ、考えさせられてしまう場合がある事が課題である。人財塾といった場でのスキルアップを身につけて行く事が課題と考えている。

<コミュニケーション>

- ・自分の問題点・課題は、ある程度自分自身で解決できるが、自分以外の人、組織的なことを解決することは非常に困難である。
- ・地域住民の意識変化を図るための心に響く言葉。
- ・活動の広がりには人材育成は必要。ただ、創生期(第1次)の人たちの思い、考えが2次、3次と移り変わる中で、繋がらず安易に変化してしまっていることがある。変化はあってしかるべきであるが、方針が十分に伝わらないのは、新たな人材の育成だけでなく、現在いる人材への意識づけも必要になると思う。
- ・たまにしか会うことのできない地域の若い世代の方たちと、まだ十分なコミュニケーションが取れていない
- ・周囲との意識の乖離。
- ・理論を共有するメンバーをもう少し増やしたい。
- ・活動にもっと楽しさ、やりがい、感動を組み込みたい。

<行動を起こすのに不安がある>

- ・出来ることからと思いつつ、何からはじめて良いか分からない。また、そのやり方が正しいかどうか不安。
- ・地域活動を何かやりたいと思っはいるが、行動に移せていない。
- ・実際に地域活動を行う手法が分からない。
- ・行政が地域活動に進んで参加することは大切だと思いますが、行政という立場上、どこまで踏み込んでいいのか分かりません。また、地域で活動されている方が把握できていないです。
- ・職場ではなく、地域(地元)にもどったときに立場的にどの程度踏み込んだ方が良いのか、考えている。
今回の研修で、やはり何事にもヤル気をだして、最大限努力しなければならないと感じた。

<その他>

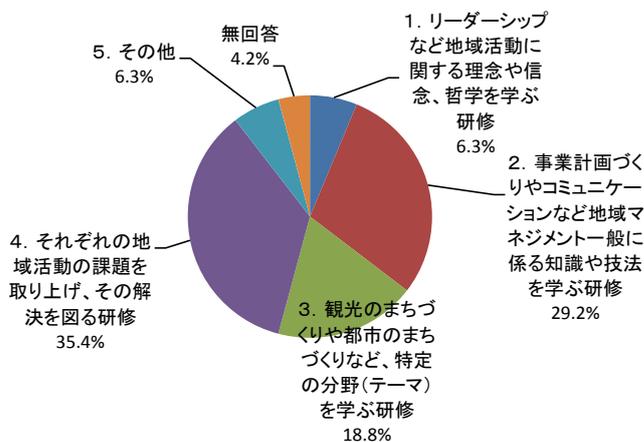
- ・職場・関係者等で相談・話をしているが、見方を変えるとそれぞれ当事者でもあるため、自分たちの活動がどうなのか、地域活動を客観的に評価しアドバイス等する外部専門家・アドバイザーの必要性を感じることがある。
- ・地元の閉校する小学校の跡地利活用問題について、地元を活性化するためのアイデアが出ていない。
- ・豊重館長の、やねだん以外の取り組みで、行政のお金に頼らない地域づくりの事例があれば、ぜひ情報をいただきたい。
- ・中間支援組織としての新たな事業の方向を模索中である。

【さらに受講したいと考える研修について】

問11 人財塾等の受講後に、さらに受講したいと考える研修の内容は何か。(単一選択回答)。

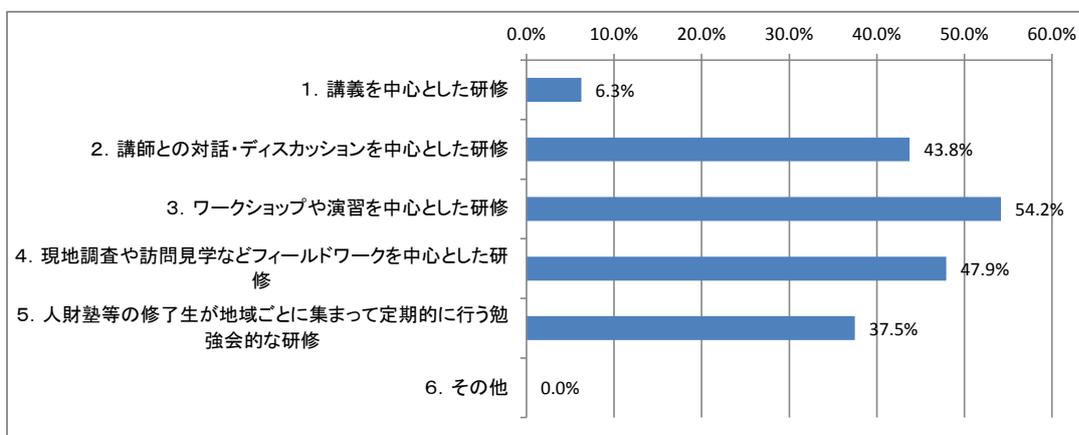
SA N= 48		
1. リーダーシップなど地域活動に関する理念や信念、哲学を学ぶ研修	3	6.3%
2. 事業計画づくりやコミュニケーションなど地域マネジメント一般に係る知識や技法を学ぶ研修	14	29.2%
3. 観光のまちづくりや都市のまちづくりなど、特定の分野(テーマ)を学ぶ研修	9	18.8%
4. それぞれの地域活動の課題を取り上げ、その解決を図る研修	17	35.4%
5. その他	3	6.3%
無回答	2	4.2%
合計	48	100.0%

※その他 2と4を選択:1件、2と3を選択:1件、4と5を選択:1件



問12 人財塾等の受講後に、さらに受講したいと考える研修のスタイルは何か。(複数選択回答)

MA N= 48		
1. 講義を中心とした研修	3	6.3%
2. 講師との対話・ディスカッションを中心とした研修	21	43.8%
3. ワークショップや演習を中心とした研修	26	54.2%
4. 現地調査や訪問見学などフィールドワークを中心とした研修	23	47.9%
5. 人財塾等の修了生が地域ごとに集まって定期的に行う勉強会的な研修	18	37.5%
6. その他	0	0.0%
合計	48	100.0%



問13 人財塾等の受講後に、さらに受講したいと考える研修は何か。(主な自由回答)

<1. 講義を中心とした研修>

- ・もっと多くの実践事例を聞き、自分の地域に適した、また、自分の地域でもできることを聞くとともに、具体的な事例から課題とその解決策とその導き方を学びたいと思う。

<2. 講師との対話・ディスカッションを中心とした研修>

- ・より良い話し合い、対話方法(演習まじえたもの)、合意形成についての研修。
- ・各地域での課題は、過疎化・少子高齢化の進行、産業の低迷、後継者不足等、共通のものが多い。よって一次的な研修は、先進地事例等一般的なもので良いが、それをそれぞれの地域によって、誰がどのように取り組めば効果が出せるかという実践(アクションプラン)になると、それぞれの地域の実態・特性によって、独自のプランが必要であり、誰がどのようにやるかという部分を行政と民間が腰をすえて話し合せて整理していないと実践展開にならない。よって、対話・ディスカッションを中心とした研修があればよいと思う。
- ・「具体的」であること。受講者の地域は千差万別であるため、それに対応することは困難である。自分自身で感じ考え、自身の地域に落とし込んで持ち帰ることが大切と考えるため、五感に基づくより多くの「実感」する機会をいただきたい。聞くだけでなく話す。書くだけでなく作る。見るだけでなく触る…等。地方公務員は働いている地域も自分の自治体に限られることが多いため、さまざまな具体例と自分の思いをぶつけ消化する「場」をいただければありがたい。
- ・今回の研修は講義中心で対話・演習が一部であったため、次回受講する研修は、演習や現地学習、対話を中心とした内容のものがいい。
- ・地域活動の活発な所から来てもらい、話を聞きながら、ディスカッションできるもの。
- ・地域の方々と交流し、話をする場での交流を含めた、講師との対話。
- ・フィールドワークやワークショップは、様々な意見や先進的な事例を知ることができていい面がありますが、どうしても勉強した事例のものまねをしてしまう気がする。直接対話や勉強会的な場で、自分の問題を解決・相談する場が持てれば参加したいと考える。
- ・全国で活動している講師との対話とワークショップ。

<3. ワークショップや演習を中心とした研修>

- ・講義だけでなく実技を交えたプレゼンテーション能力の向上。
- ・理論や考えをどのようにしてカタチにしていくか、とういうような手法や話し合いの場に関する経験値を増やすための研修に参加したいと思う。ワールドカフェやワークショップなど。
- ・少しずつではありますが、地域の活動を始めているので、その具体的な取組みに関しての問題を解決できる研修や、その活動に必要なスキル等が学べる内容が良い。
- ・地域活動の活発な所話を聞いて、その後ワークショップで個々の意見交換を行う。
- ・講師の方々の話を熱心に聞かせてもらった。その内容を身につけるためにシミュレーションを兼ねた実践ワークショップなどを勉強できたら良いと感じている。

<4. 現地調査や訪問見学などフィールドワークを中心とした研修>

- ・自分自身の思いを伝えたり、他の人の話を聞いて共有する話し合いの重要性や、実際の現場に向くフィールドワークなど、講義だけでなく自分が動いて何かを感じるものを受講できればと思う。
- ・実際に先進的な現場を自分の目でみることができる研修を受講したいと考えている。
- ・自分の住む地域でなくとも、他の受講生と共に「まち」そのものを見たり考えたりしていく機会を持ちたい。
- ・座学ではなく、地域に出ていく(フィールドワーク)をしながら、地域の課題を見つけ出し、参加者や地域の人たちと共有しながら、解決策を模索するような研修や、それを解決していくために具体的にどうしていけばよいのか考えさせる研修を受講してみたい。
- ・業務として地域活動を行うことは難しく、地域振興を担当しておきながら実際に地域に入ることは意外と少ない。そのため、研修という機会に様々な現地調査や実地調査を行えるプログラムがあれば、ぜひ参加したい。
- ・実際に地域で活動されている方の話を聴くだけでなく、現地調査に行き、自身の目で見て体験できる研修があれば、参加してみたいと思う。
- ・先進的な取組みを行っている団体・場所を見学し、現場の声を聞いてみたい。

<5. 人財塾等の修了生が地域ごとに集まって定期的に行う勉強会的な研修>

- ・現場の状況をフォローアップできるような講座。
- ・研修で知り合った方とは情報交換になるので、定期的な集まりがあれば良いと思う。

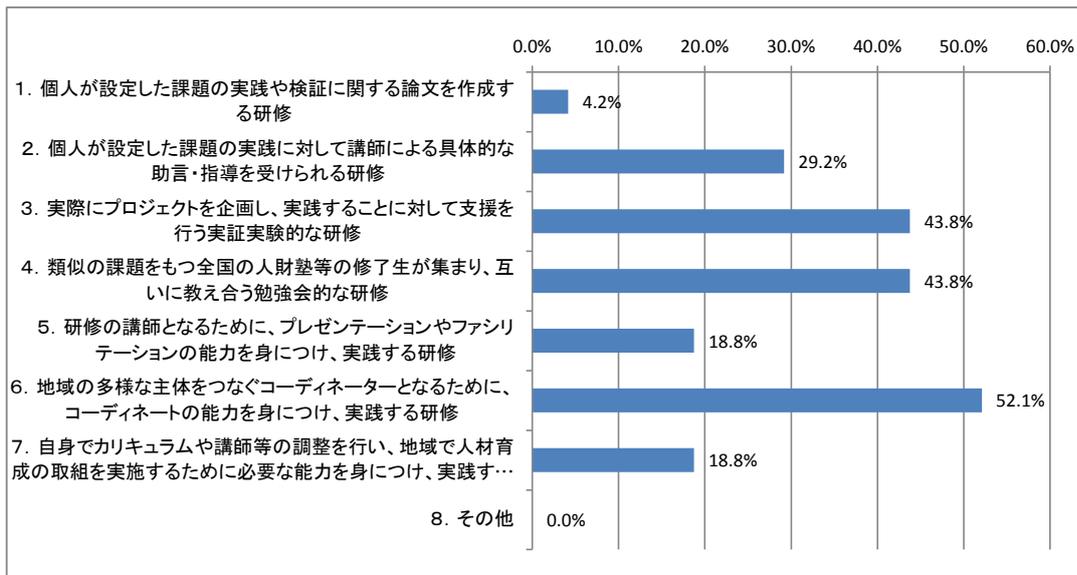
<6. その他>

- ・地域づくり人育成講座上級編のような研修。
- ・実際に他の受講生と一しょに一つの地域活動を立ち上げる研修。
- ・今回の講師をしていただいた方が独自で行っている研修。
- ・「それぞれの地域活動の課題を取り上げ、その解決を図る研修」を受ける中で、「現地調査や訪問見学などフィールドワークを中心とした研修」を受けることのできる研修。
1年なら1年と期間(月1回×12回/年など)を決めて、実際にある地域のまちづくりと一緒に考えていくような長い期間を通した研修。
- ・少人数での演習(地域の状況、世帯状況など想定。地域づくりをするための目的の発見から実施まで一連の演習を行う)。実施母体(まちづくり協議会など)の自立度や想定住民の満足度など多方面から評価する。
- ・失敗事例にこそ学ぶべきことが多くありそうなので、成功事例ではなく、全国選りすぐりの失敗事例を分析する研修。

【最上位の研修として受講したいと考える研修について】

問14 問11～問13で回答された研修の次の段階として、仮に最上位の研修があるとした場合、受講したいと考える研修の内容・スタイルは何か。(複数選択回答)。

MA N= 48		
1. 個人が設定した課題の実践や検証に関する論文を作成する研修	2	4.2%
2. 個人が設定した課題の実践に対して講師による具体的な助言・指導を受けられる研修	14	29.2%
3. 実際にプロジェクトを企画し、実践することに対して支援を行う実証実験的な研修	21	43.8%
4. 類似の課題をもつ全国の人財塾等の修了生が集まり、互いに教え合う勉強会的な研修	21	43.8%
5. 研修の講師となるために、プレゼンテーションやファシリテーションの能力を身につけ、実践する研修	9	18.8%
6. 地域の多様な主体をつなぐコーディネーターとなるために、コーディネート能力を身につけ、実践する研修	25	52.1%
7. 自身でカリキュラムや講師等の調整を行い、地域で人材育成の取組を実施するために必要な能力を身につけ、実践する研修	9	18.8%
8. その他	0	0.0%
合計	48	100.0%



問15 最上位の研修として受講したいと考える研修について。(主な自由回答)

<コーディネート能力の向上>

- ・地域の多様な主体が協働することによって、より地域が活性化すると考えているが、なかなかその協働への糸口がうまく見つからない現状があるため、それをうまくつなぐコーディネーターの存在がポイントになると思う。そのようなスキルを身につけることができればと思う。
また、同じ研修を受講した修了生同士のネットワークを大切に、この先も集まってお互いが能力・意識を高めあう機会があると思う。
- ・最終的には、住民と職員の間で活発な議論が行われ、まちづくり基本条例の制定につなげていきたいと考える。その話し合いの場が自分でコーディネートできれば最高だと思っている。
- ・地域の中心となって地域課題を解決していけるようなコーディネート能力を身につけられるような研修を受講したいと思う。
- ・地域づくりをけん引する人材となりうるための能力を磨きたい。漠然とではなく、塾生のあなたが動かなければ、地域は動かないという芽生えをさせる塾であってほしい。
- ・職務として、地域の方々がそれぞれの活動で困っているときに少しでも相談に乗れるような、(できることを探せるような)スキルを積める研修を受講したいと思う。
- ・事業を実施していくためにはプロジェクト企画が一番重要になると思う。企画を行っていくための順序立てとしてコーディネートしていくための能力もできれば身につけたいと感じている。

<実践>

- ・地域に赴いて、地域の方と一緒に話し合う。その話し合いの場で、講師、指導者の助言を仰ぎながら、インターン研修するようなこと。
- ・理論より実践をした方が、見えない物も見えてくる可能性がある。
- ・実践面はもちろん、理論面からも十分に他に示すことができるように時間を使いたい。そのためには、実践の継続と検証、理論との整合性が必要になると考える。
- ・自身でカリキュラムや講師等の調整を行い、地域で人材育成の取組を実施するために必要な能力を身につけ、実践する研修。
- ・実際に他の受講生といっしょに一つの地域活動を立ち上げる研修。
- ・企画すれば、あとは実践である。
- ・一般的な研修で行うワークショップや企画・立案は、どうしてもその場だけのシミュレーションであり、やはり現実性が低い。そのため、最上位の研修として実際のプロジェクトを企画・実践できれば、これほど身になる研修はないと思う。
- ・実際に明確な目標設定がある研修に参加したい。白紙の状態から、互いに相談をしながら方向性を定める内容のほうが、主体的に取り組めるため、あらかじめ用意されているものが少なく、自分たちの裁量で進めていける余地のある研修を希望する。
- ・異業種の方々と交流をし、講座の中で何かをつくりあげるグループワーク。
- ・地域づくりについては、現在も様々な団体が各地域内で活動しているが、仮に新しく自分で何か事業を起こそうとすると、全く新しいことを自ら企画、実践することになる。そのため、実践しながら様々なことを、同時進行で考えていく必要があるので、実証実験的な研修が必要と考える。

<対話・ディスカッション>

- ・それぞれ地域の活動の課題に対して、対応を考える研修。
- ・地域活動を成功(良い方向に導いた)した場合において、そういった成功者が集まり他の地域に当てはめるためにはどういったことが必要かを考えるような研修。
- ・実践している活動に対して、発展する内容が良いので、現在の取組みを伝え、問題・改善点をまとめ、助言・指導を頂き、発展させていければ良いと思う。
それぞれの事例により、何が必要かは違いがあるのかもしれない。
- ・地域活動に成功している自治体と実際に同じ課題を抱える自治体と相互に話し合うことができる研修を受講したい。
- ・同じような地域活動を行う人達が集まれば、現在感じている問題点・課題を共有するところでき、今後の活動に役立つと思う。
- ・地域活動の活発な所から来てもらい、話を聞きながら、ディスカッションできるもの。地域活動の活発な所話を聞いて、その後ワークショップで個々の意見交換を行う。
プロジェクトを企画し、それを実践できるプログラムを企画したものを参加者や講師からアドバイスを受けられる講座。

<6. その他>

- ・家族構成、生活サイクルも多種多様な中、たったひとりでも空き時間にふと来て何かできる、そんな気楽な地域活動への窓口があったらいいと思う。
- ・地域活動を実践するうえで、関わってくることが考えられる法令上の規制と、その解決策の例示を学ぶ研修。(たとえば、グリーンツーリズムを実施する場合に関わってくる法令など)

問16 現在、業務として行っている地域活動において取り組んでいる活動の概要について。(主な自由回答)

- ・ 市民活動団体の支援として、まちづくり活動の提案に対して助成金を交付する制度の実施。市民活動団体交流会の企画運営、市民交流センターとの連携・共催事業の展開など。
- ・ 業務としての地域活動は無い。
- ・ 地域や学校に出たコンサートや劇、また、地域イベントの相談業務や支援を行っている。
- ・ 文化財を活用した事業。
- ・ 「特産づくり」とともにそれを支える「地域づくり」に取り組んでいる。具体的には集落支援員・地域おこし協力隊員を配置し、地域の課題に取り組む庁内組織と、集落・地域の課題に取り組む集落支援員・地域おこし協力隊員の体制により、それぞれが独立して地域活動をすすめるのではなく、「村の課題イコール地域の課題」「地域の課題イコール村の課題」の考え方のもと連携して活動をすすめている。
- ・ 公民館活動。主に住民主体で行う委員会活動(運動会など体育系事業・文化祭など文化系事業・広報)と学級講座(子育て・伝統文化・環境など)を行っている。
- ・ 公民館活動全般(夏祭り、運動会、文化祭、成人式、学級・講座)。
- ・ 地域による公園の維持・管理のための、守る会・里親による活動の支援。
- ・ 海洋環境保全に向けた取り組みとして、地元漁師、漁協職員と共に海を潜り、海草の生育調査、海中清掃や岩盤清掃等を行っている。
- ・ 地域福祉の推進(地区社協、サロンの支援)、民生委員児童委員協議会の事務局
- ・ 「記念日」をテーマに地域のブランド化を進めるため、地域の事業者、学生らと共に施策を考え実行している。
- ・ 高齢者向けのパソコン講座。
- ・ 市内にある地区コミュニティ組織を対象に、地域づくり計画の策定を推進している。
- ・ 廃校になった地区の校舎を中心に、地区全体の活性化のビジョンをワークショップ等を通して作成している。
- ・ 職員の意識改革に向けた人材育成講演会や、職員や住民とのワークショップやワールドカフェ等の仕掛けを企画している。
- ・ 将来の地域のリーダーや起業者を育成するための「まちづくりリーダー養成講座」を開催している。講座(全十回)には、一般の住民と同数程度の職員が参加し、先進事例やNPOや企業が行うCSRなどに大学のサポートを受けて学んでいる。
現在は、次のステップとして、テーマごとに分かれ、グループワークを通じて事業計画を作成している。
- ・ 市青年団体における、ボランティア参加、成人式の企画・運営、自主事業の運営。
- ・ 整備計画のある地域の拠点施設(交流施設)を活用し、ソフト事業の実施を地域住民と協力して検討することにより地域の活性化を促す。
- ・ 市民協働を進める団体の発足からESDを含む地域づくりとその地域の自立に向けた取り組み。
- ・ 大学生を中心とした有志チームで、地域価値の新たな発掘をする中で、学校や地域住民を巻き込んだ地域づくりとシビックプライドの醸成を図る取り組み。
- ・ 市民活動団体への財政的支援。
- ・ 幹線鉄道のより一層の活性化を図ることを目的とした、協議会に自治体として参加している。
- ・ 高速道路延長の早期実現を目的とする協議会の事務局として、総会や要望活動等を行なっている。
- ・ まちづくり協議会の事務局の1人として、毎月開催の定例イベント及び季節ごとのイベント(18回)の準備・調整をしている。
- ・ 地域企業の若手経営者や後継者・経済団体職員・行政職員を対象にして、人材育成塾を行政主導で立ち上げ、事務局として運営を切り回しをして。1期2年で、年間12~13回の講座を組んで、中小企業の経営者の思いや、会社創業継承等の苦難の歴史等についても深く学び、地域に根付く、顕然たる納税者としての企業づくりを行える人材と、併せてかかわる経済団体・行政職員の繋がりを持たせることで、地域の企業としてともに成長していくことを目標としている。
この塾は、座学だけではなく、他地域との交流も大きな柱としており、大学教授を介して、塾生同士の相互の交流を行っている。遠くの実業家・近くの異業種の交流による情報の交換と新たなコラボレーションにも期待しており、少しずつ動きが見えている。相互の塾に参加したり、企業同士の連携も始まっている。地元自治体からの補助金と塾生の年間負担金、県外研修参加負担金等々で賄っている。
- ・ 中山間地域の振興を支援する活動(①地元コミュニティ等が行う、集落機能の強化や都市部との交流活動、移住者受入れ等の支援。②都市部の団体等とのコーディネート 等)。
- ・ NPO等が行う地域活動を支援する活動(①協働事業として、物心両面で行う支援。②NPO等の団体間のコーディネート 等)。
- ・ 都市部の住民と地元住民が交流し、地域のモデルとなる事業。地元の交流団体を支援する活動。これらの事業を発信する事業。

- ・人材育成講座、NPOとの協働事業、子ども大学(自然・文化・芸能など20講座(1講座最低10回)を開催。これをNPO団体・グループにお願いして実施している。年間210日稼働、43人の子どもが参加している)の開催、夏冬に地元河川の源流を活用した感動体験を子どもを対象に実施している。
- ・いなかとまちのコーディネート・交流事業、草刈や祭りなどの集落応援隊の派遣、生協組合員へのいなか体験プログラムや、小学生向けセカンドスクールの実施・仲介、企業CSRに向けた聞き取り調査、HP・FB・通信などの情報発信、空き家バンクによる入居者への聞き取り調査。
- ・青年会議所において活動(今年度は、地域の子供達を連れて、50キロ歩行する事業を担当。他に様々なイベントをサポート)。
- ・市民活動団体どうしの連携、行政との協働、地域まちづくりの市民協働支援、市民協働推進に係る講座の実施、市民交流センターの施設管理運営実施、市民交流サロンの管理運営、大学との協働連携の窓口、各種市民活動団体実施のイベントへの後援・共催支援。
- ・地域コミュニティの活性化(少子高齢化・人口減少自治会対策)、里山地域振興。
- ・町内会・行政区からの相談に基づき、各種補助事業の紹介や書類作成の手伝いを実施している。また、市民活動団体も担当しているため、それらの団体からの相談対応等のを行っている。
- ・市町村合併による各地域の連携、地域資源の共有活動。

問17 現在、業務外で行っている地域活動において取り組んでいる活動の概要について。(主な自由回答)

- ・市域で活動する青年団の一員として活動しており、若者自身も楽しみながら地域に還元できる事業として、主に年間3事業の企画・運営を中心に活動を展開している。
- ・ファンドレイジングに関心ある関西圏の方々でグループを作り、自主的な勉強会や情報交換会を行っている(今のところ予算は0)。地域活動の主体というよりは、中間支援に関心があるため、研修会や他主催のセミナー等で、ファンドレイジングについて啓発する活動が多い。NPOなどの広報印刷物の制作支援をプロボノで行っている。
- ・音楽グループの育成を行っている(ジャズバンド:25人、年間5公演、女性吹奏楽団:15人、年間3公演、ロックバンド:7人、年間4公演)。これらのグループが、それぞれ地域イベントに参加して、まちづくりの活性化に努めている。
- ・地域の一員として地域行事・役員等に積極的に参加。
- ・地区青年会(お祭り、下草刈り、桜の保護等)、消防団(操法技術訓練、火災予防運動、機関点検等)。
- ・地域の住民主体で立ち上げた子どもたちと体験活動を行うグループに関わっている。平日の放課後時間帯(週1回)や終末(月1回)に自然の中で子どもたちと体験活動を行い、これまでも、地域住民の協力も伴い、高さ7mのツリーハウスを建設するなど、地域と共に活動を行っている。
- ・小学校おやじの会、小学校PTA活動、地区青少年育成会、地区コミュニティ、地区体育振興会、地区公共交通活用検討委員会。
- ・県内自治体職員や民間企業社長等による有志グループで、首都圏向けに地域の魅力を発信している。特に首都圏の30代~40代のビジネスマンをターゲットとして、地域の持つ歴史・風土・文化に触れられる、完全オーダーメイドの着地型ツアーを企画・提供している。
- ・地元神社のお祭りの保存とPRを兼ねた活動。収入は会員会費、寄付など。
- ・耕作放棄地を利用したNPO農園。
- ・地域のまつりでのボランティア、スポーツ団体におけるイベントの手伝い等。
- ・道路清掃、敬老会、お祭りなど
- ・地元集落の環境整備としての草刈作業のほか、地元消防団活動。
- ・町職員を中心とした有志で、町の良いところを見つける活動。公民館に町の地図を掲示し、一般の方に情報提供を求めて、それをまとめて公開したいと考えている。町のPR活動など、職場から一歩離れて考えることをしている。これらの活動と並行して、最近では、町が行うイベントや企画へのお手伝いの要請が多い。有志の集まりなので、参加者の意識は高いと感じている。
- ・町内小中学校へ、絵本の読み聞かせのボランティアを行っている。
- ・地域活動を行う上での知識や経験が不足しているため、自分自身のスキルアップに力を注いでいる。例えば、県内自治体の職員が集まり研修等を行っているグループに参加し、ファシリテーション能力や地域の課題について学んでいる。また、県が地域活性化のためのキーパーソンを育成する講座を受講している。
- ・合併後の地域を盛り上げるため、旧自治体の若者を集めて合併後の周辺部対策として市からの提案型助成事業を行ってきた。現在は1事業を行うだけであるが、本塾の受講を機に、サポート的立場からリーダーとして取り組んでいこうと意を新たにしている。
- ・NPOの活動への参加。
- ・自治会の行事の積極的な参加。
- ・廃れつつある地域の行事の復活。
- ・NPO法人の活動(外国籍の子ども達の居場所づくりと学習支援)を応援している。
- ・ほたるの保護活動を行っている。河川の清掃や、カワナナの養殖、年に一回お祭りを実施している。お祭りでの模擬店収入や会費で活動している。夏場、保護地の道路を閉鎖することや、川に落ちないようにロープを張る・期間中の見回りといった活動を行っている。
- ・伝統野菜を活用した地域おこし活動(グルメイベント出展・飲食店でのメニュー化、グリーンカーテン・栽培体験、ご当地キャラクター)。会費収入、助成金(着ぐるみ制作助成)等で活動。